優秀なディーラーの条件　―　首尾一貫と朝礼暮改

優秀な為替ディーラーの条件とは何だろう。市場や相場のメカニズムに精通している、経済の知識が豊富だ、長い経験がある、頭脳明晰である、勘が鋭い、信念がある、忍耐強い、等々。それ等は的外れではないが、それほど重要な条件とは言えない。

私は米銀１行、英銀２行で為替、資金、債券などの取引をしてきた。その中で１００人以上の為替ディーラーと一緒に仕事をし、少なくも同数以上の顧客のディーラーと取引をした。ここで言う優秀なディーラーの条件とは私の個人的な経験に基づくものだ。優秀とは収益力のみの判断だ。

その条件とは朝令暮改を躊躇なく行えることだ。ディーリングルームの一日は朝のミーティングから始まることが多いが、その時にディーラーたちは各々の相場観や方針を表明する。また取引先の顧客や銀行のディーラーとも意見交換をする。そうした自分の方針を市場は始まるといとも簡単に変える人もいれば、一日中固守する人もいる。あるいはもっと長く。

ディーラーは自分に信念を持つことは大事だ。いろいろな情報が飛び交い相場が変動する中で右往左往してロングとショートを繰り返すとストップロスの連続になりかねない。

だがそれ以上に大事なのは自分の意見を変えることに躊躇しないことだ。長期的には後者のディーラーの収益力の方が高くなる。自分の意見をすぐに変えるのは勇気のいることで簡単ではない。意見を変えずにアゲインストを耐えて最後に利食いができれば格好は良い。だがこのスタイルだと利益と損失を出す時がはっきり分かれ、概ね損失の時が大きくなりがちだ。ディーラーの優劣はあくまでも一定期間のトータルの結果だ。

最近の FED や ECB などの中央銀行の当局者たちにも同じような傾向が見られる。インフレの傾向や利下げ時期の見解が 1 週間くらいで変わる。金融政策はデータ次第と FED のパウエル議長も ECB のラガルド総裁も発言してきたので、データが変われば見解が変わるのは当然ではある。

ちょっと前まではフォワードルッキングで見通しを示した上で政策を遂行するという政策スタンスがメインで市場参加者の多くもそれに馴染んでいた。そうした人から見ると最近の中央銀行は一貫性に欠け、信頼性が低下したと映る。

だが地政学的リスクやサプライチェーンの見直しなどが経済や金融に与える影響が増し、金融政策のかじ取りが複雑化する時代では、データ次第は政策の誤りを最小化する最善の策なのだ。

為替レートは元々不確実性が支配する市場の変動物なので朝令暮改は市場参加者にとって実践的な対処法だが、中央銀行の当局者も不確実性が増す世界でより為替ディーラー的になってきたと言える。